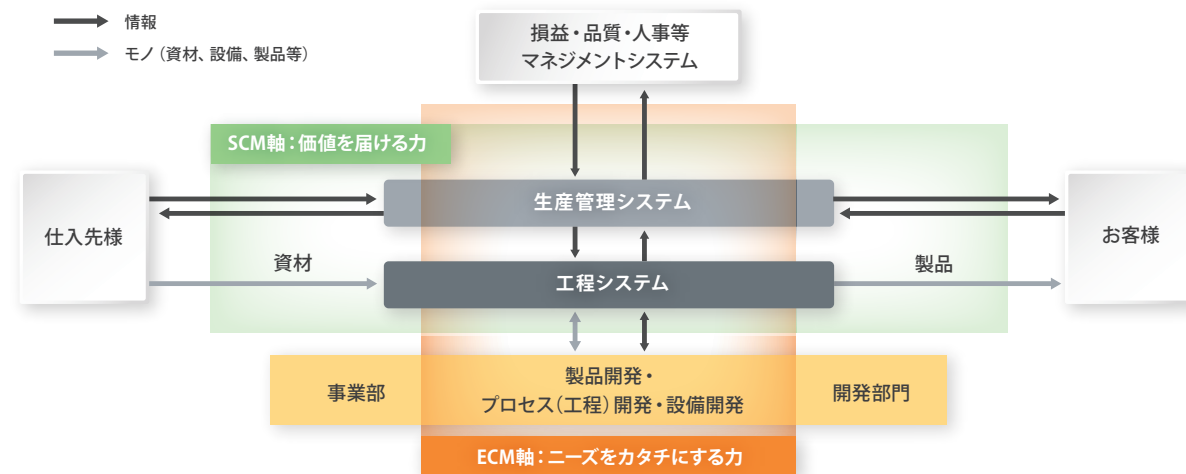


ムラタのモノづくり

基本的な考え方

ムラタでは、仕入先様から当社を通じてお客様に価値を届けるSCM（サプライチェーンマネジメント）軸と、製品開発やそれともなうプロセス開発や設備開発を行うECM（エンジニアリングチェーンマネジメント）軸のそれぞれの領域を強化していくとともに、連携させていくことでムラタのコンピタンスである「ニーズをカタチにする力」「価値を届ける力」を発揮しています。

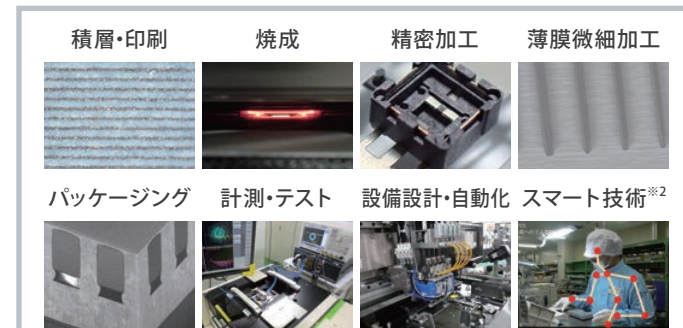


新製品創出と事業を支える生産技術

コンカレントエンジニアリング^{※1}を重視し、プロセスと設備の開発を担う生産技術部門は、新製品の開発初期から協働し、経済性・安全性・品質の高い独自の内製設備の開発・設計・製作を行っています。また、将来の競争力となる要素技術を戦略的に絞り込み、新たにCO₂排出量および材料消費量削減などの「環境対応」と、現場のウェルビーイング向上などの「イキイキ現場」という2つの課題解決の視点を加え、チャレンジングな開発テーマに取り組んでいます。

※1 製品開発工程において、複数業務を同時進行し開発の効率化を図る手法

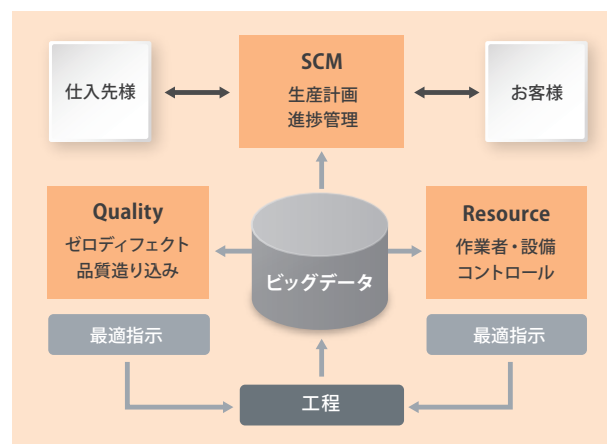
生産技術の領域



※2 ロボット、AIなどの技術を活用し、生産性・品質向上などモノづくり課題を解決する技術

お客様の要求に応える管理システムと管理技術

独自の生産管理システムを開発し、運用しています。この生産管理システムには、受注情報をもとに生産計画を立案し、納期回答や資材発注につなげる機能<SCM>、生産計画にもとづいて実際の生産を行うために製造条件の設定や品質制御などを行う機能<Quality>、作業員や設備などのリソースの稼働状況をモニタリングし、その増減や生産順などの指示を行う機能<Resource>の3つがあります。これらの機能を活用し、ますます高度化・多様化するお客様の要求に応えていきます。



モノづくり力強化の戦略

エレクトロニクス領域の拡大にともない、継続的に拡大する電子部品需要を着実に捉え、競争力の維持・増強を実現するために、短期（現状）と中長期の両目線から想定される課題を設

定し、グローバルな製造拠点と協働することでモノづくり力強化を実現していきます。

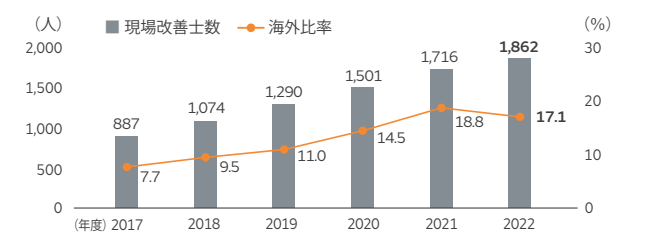
モノづくり現場を支える人材

優れたモノづくりを実現する土台は人材です。ムラタでは、製造現場の最前線で活躍する製造監督者や作業員を中心に、モノづくりの競争力を支える改善技術をもって現場改善に取り組む「現場改善士」の育成に力を入れています。国内外の製造拠点にて現場改善士の育成を継続することで、2023年3月末時点では総勢1,862人となりました。

また、設備主体のムラタの工程では、保全技能者もモノづくりを支える重要な現場人材です。習熟に時間を要する保全のスキルを

形式知化して標準化を行い、国内外の主要生産拠点に設置された「保全道場」でこれを伝承し、育成・レベルアップを図っています。

現場改善士の人数推移（連結）



グローバルでのモノづくり人材育成

ムラタの海外売上高比率は90%を超えていますが、海外生産比率は約35%となっています。将来的に日本国内の生産年齢人口が減少していく中、グローバルに事業を進展させ、競争力を持った製品を提供し続けるために、海外でのモノづくり力強化も加速させていきます。そのため、海外拠点の自律的發展を目指して製造拠点の多い中華圏および東南アジア圏では、それぞれの地域圏での人材育成組織を立ち上げ、日本国内とも連携し

つつ、製造監督・設備保全・IE・生産管理などの人材育成プログラムを構築し、モノづくり人材の育成を推進しています。



デジタルを活用したモノづくりの変革

お客様のニーズの高度化やさらなる品質向上、新製品創出、生産性向上といった課題に加え、人材確保やロジスティクスの複雑化といったさまざまな課題に対応していくため、DXを活用したスマートファクトリー化の取り組みを進めています。

生産現場の課題を解決するために、AIやロボットなどを活用した最新技術や、センサやIoTソリューションなどの自社製品およびノウハウを活用しつつ、革新的な業務設計・システム設計を構築していきます。

「製造現場で実施しているスマートファクトリー化の取り組み」の詳細はこちらをご覧ください。▶



モノづくり領域でのデジタル活用事例

